

Go for 3E! ～保護者の皆さまへ校長メッセージ～

三田西陵高等学校

笑顔

夢

プロジェクト

3月号

人生をビンに例えると...

他人事ではない。3. 11

2011年（平成23年）3月11日14時46分に発生した東日本大震災の復興が少しずつ進む4年目から数年間、現地の仮設住宅に音楽を届けるボランティア活動に参加しました。その際に訪れた、宮城県石巻市の大川小学校跡地は当時の津波の威力の恐ろしさが当時のままで残されていて、津波の水が引いた後にたくさんの子ども達のご遺体があったと聞き、一瞬のうちに命を奪われた子ども達の無念、守りたかった命が守れず自らも命を奪われた先生方の無念、我が子を失った親御さんの無念を思い、ただただ手を合わせました。



2016. 8. 20 撮影 大川小学校跡地

閑上(ゆりあげ)の鎮魂の丘(日和山)の下には震災前の写真と震災すぐの写真が比較した掲示があり、普通に当たり前にあった日常の生活が、家屋が、全てが津波とともに根こそぎ流された現実を突きつけられました。明日か、数年後か、次にこの地を揺るがす地震は大津波を伴います。東北の地震が遠くで起った他人事にはせず、もし地震が起こったときに、ハザードマップで津波による浸水被害が免れない地域にいたらどう命を守る行動をとるのか？3月11日はお子様と一緒に考える機会にさせていただけたらと思います。

Twitterで見かけて考えさせられた『人生をビンに例えると...』の動画の内容を紹介します。

大学で先生が学生の前に大きなビンを置き、満杯になるまでゴルフボールを入れて問いかけます。

先生「このビンは満杯かな？」

学生達「はい？ いいえ？」（はっきりしない様子）」

すると今度はビンの隙間が満杯になるまで小石を流し込んで問いかけます。

先生「これで満杯かな？」

学生達「はい？ いいえ？」（まだはっきりしない様子）」

さらにビンの隙間が満杯になるまで砂を流し込み、問いかけます。

先生「今度こそ満杯かな？」

学生達「はい」（納得した表情で）

先生はビールを取り出しビン縁までなみなみと注ぎ、先生「このビンは人生を意味していると思って下さい」

「ゴルフボールは家族・友達・健康など『一番大切な物』と思ってほしい」

「小石は車・仕事など『ある程度大切な物』です」

「砂は『それ以外の些細なコト』さ」

「もし砂を先に入れたらゴルフボールや小石が入るスペースがなくなる」

「人生と一緒にさ」

「重要じゃないコトに時間を使いすぎると、本当に大切なものに使う時間がなくなるんだ」

「自分の幸せに何が重要なのかを整理してほしい」

「ゴルフボール（最も大切なコト）を優先するんだ」

「優先順位をつけよう、些細なことだらけの世の中だからさ」

学生「先生、ビールは何を意味しているの？」

先生「聞いてくれてありがとう」

「どれだけ満杯に（＝忙しく）見えても、友達とビールを飲む素敵な時間はあるってことさ」

『人生をビンに例えると』と検索して動画を視聴することができます。お子様と一緒にご覧いただき、会話のきっかけになればとご紹介します。

<質問コーナー>

【Q1】三田西陵って自由にアルバイトができる学校なんだと聞きました。本当ですか？

※実際にあった中学生の保護者の方からの質問です。

【A1】この質問は、一保護者からの質問というより、同じ疑問をもっておられる中学生の保護者の方も多いのではと感じています。

令和4年度4月以降、アルバイトは許可制から申請制に変わりました。3月1日現在、アルバイトをしている人数は、1クラス平均で、1年生6.2人、2年生7.2人、3年生16.6人となっています。もちろんクラスによって差がありますが、私のこれまでの経験値から考えても、他校と比べて格段に多いと感じています。コロナ禍やウクライナ情勢等による物価高騰で、お子様が家庭を助けるためにやむを得ずアルバイトをしなければならない状況があることも承知しています。その場合はもちろん応援します。ただ、無駄なこと理屈に合わないことをどれだけやれるかが**青春**なんだとしたら、そこに**感動**があるのだとしたら、アルバイトによって、今ここでしかない体験が見失われてしまうことは大変残念なことだと私は案じています。